

# 学内デジタルサイネージ掲載基準

令和8年1月20日

広報・基金室作成

## 1. 目的

本基準は、学内に設置するデジタルサイネージ（静止画および動画）において、短時間・遠距離でも視認しやすく、必要な情報が直感的に伝わる掲示物を作成するための最低限のルールを定めるものである。

## 2. サイネージの視認環境

設置場所：①Tottori uniQ 入口 ②事務局玄関 ③研究推進機構玄関フロア  
④共通教育棟A棟東入口 ⑤附属図書館入口正面 ⑥カフェテリア マーレ

視認距離：おおよそ 2~5m

視認時間：10~15秒程度

音 声：使用しない（ミュート前提）

※本サイネージは「立ち止まって読ませる掲示」ではなく、「通行中に視界へ入った瞬間に内容が伝わる」ことを前提とする。

## 3. 画面サイズ・データ仕様

### (1) 画面サイズ・向き

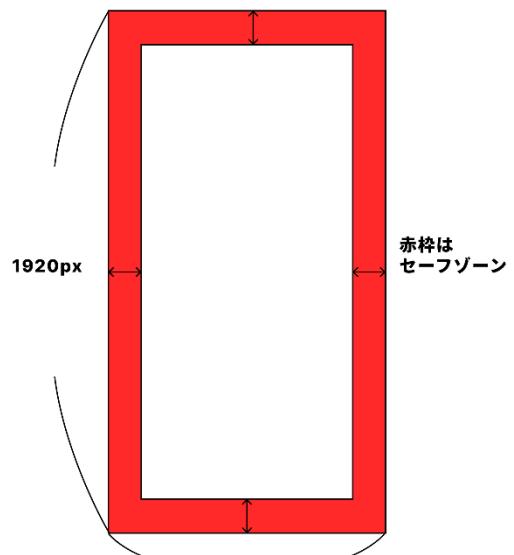
- サイズ：1920 × 1080 px
- 向き：縦型固定

### (2) ファイル形式

- 静止画：PNG / PPT / PPTX 形式
- 動画：MP4 形式

### (3) セーフゾーン

- 画面四辺 各 40px には、  
文字・ロゴ・QRコード等の  
重要情報を配置しないこと。



(画面イメージ図)

## 4. 文字サイズの基準（推奨）

用途	推奨サイズ
メインタイトル	110 ~ 150 px
サブタイトル	65 ~ 90 px
日時・場所	60 ~ 70 px
補足説明	45 ~ 55 px

※40 px 未満の文字サイズは、視認性の観点から原則使用不可とする。

## 5. 情報量・掲載内容の基準

### (1) 1画面1メッセージの原則

- 画面を見て3秒以内に「何の案内か」が分かること。

### (2) 掲載内容

- タイトル
- 日時
- 場所
- 対象者（必要に応じて）
- QRコード 等

### (3) 原則として掲載しない内容

- 長文の説明文
- URLの文字表記（QRコードへ集約） 等

## 6. 色・デザインの基準

### (1) コントラスト

- 背景色と文字色は、明確なコントラストを確保すること。
- 写真の上に文字を配置する場合は、半透明の帯（40～60%程度）等を配置して、視認性を確保すること。

○良い例



×悪い例



### (2) 色数

- 使用色は、視認性の観点から最大4色を推奨。
- 過度な装飾、グラデーションの多様は避ける。

○良い例



×悪い例



## 7. フォントの取り扱い

- 可読性の高いフォントを使用する。
- タイトル等の重要な情報は、装飾フォント、手書き風フォントは使用しない。
- 英数字・記号も識別しやすいものを選定する。

○可読性の高いフォント

- みやすいフォント
- みやすいフォント
- みやすいフォント
- みやすいフォント

×可読性の低いフォント

- みにくいフォント
- みにくいフォント
- みにくいフォント
- みにくいフォント

## 8. 掲載について

本基準に則って作成されたデータについては、デジタルサイネージ編集会議においてチェックを行う。「遠目・短時間でも内容が把握できるか」を判断軸とし、視認性、情報量、デザイン等の観点から内容を確認する。  
必要に応じてデータの修正を依頼する場合がある。

○良い例



×悪い例

